

## 園芸療法活動報告

学生相談室では、二〇〇〇年度より人間科学研究所との共同研究事業として園芸療法活動を行っている。通常、毎週金曜日の午後に、学生向けの「金曜Reアワー」という自由参加型のグループを開催しており、その中で季節に合わせて園芸療法プログラムを実施していたが、コロナ禍の影響で、従来通りの活動を行うことが難しくなった。大学が立ち入り制限を段階的に解除した昨年の後期から、金曜Reアワーは再開し、今年度もコロナ禍が続いている中、衛生面に注意しつつ安心安全にグループでの園芸活動を行っている。担当は、事務スタッフである梅原と田中、カウンセラーの筆者の三人である。コロナ禍で先行きが未だ不透明ではあるが、いつでも学生向けの園芸グループが実施できるように、また、草花を飾ることで来室者に季節を感じてもらえるように、畑の整備や草花の手入れを日々欠かさず継続して行っている。また昨年に引き続き、相談室内の畑の様子や近隣の草花の写真のネット配信を行っている。相談室の新型コロナウイルス特設サイトの中の「植物たち」のコーナーやブログに、四季折々の花や野菜の成長を学生たちに見て楽しんでもらえるよう定期的アップしている。

はじめに、昨年度の報告書で載せた個人の園芸療法の続きを報告したい。昨秋より個人的に園芸療法を行っていた男子学生A君のケースである。彼は卒業する三月いっぱいまで週一回畑に通っていた。大根の世話を中心に行い、水やりや間引き、雑草抜き、肥料散布などを一緒に実施した。一月中旬、大根畑に霜が降りるほど寒くなり、大根の葉がへたってしまった。どうなるかと心配したが、二週間後に見事に復活した。A君と共に畑の復活劇を見届け、大根の生命力の強さをあらためて実感できた貴重な日々であった(写真①②)。二月初旬収穫した最初の大根を、A君に持ち帰って味見してもらった。後日味見の感想は「おでんにして食べたなら柔らかすぎた」とのことであった。その後、大根の土壌でのせり上がり方を見ながら毎週一本



写真① 霜の降りた大根畑



写真② 大根畑復活

ずつ抜いていき、三月初旬に全て収穫した(写真③)。計二四本と豊作だった。実は今回間引きした苗を試しに空いている畑に植え直してみたのだが、出来た大根のサイズは小さく形は歪であった。収穫した大根は、食べてみると育ち過ぎたのか筋が固かった。A君の希望で収穫を待ち過ぎたことが原因だと思われる。収穫時期のこだわりは、卒業を目前にしたA君の大学や学生相談室へ思いの整理や、別れの作業と重なる。彼の気持ちに寄り添い作業をできたことは、まさしく園芸が心理療法として機能できたのではないかと思う。その後、A君は春の寄せ植ええ、アスパラガスの苗とジャガイモ(メイクイーン)の種イモ、ミョウガの植え付けまでをスタッフと一緒にに行い、卒業していった。



写真③ 大根収穫

春の寄せ植えの写真と、夏のヒマワリの写真を載せておく(写真④⑤)。このヒマワリは卒業生が数年前の寄付してくれた種を育てたものである。遅咲きで九月末に満開となった。ちょうど後期授業が始まる頃であり、来室学生の気持ちを和ませてくれたように思う。

次に、金曜Reアワーでの園芸

活動を報告する。五月中旬に畝作りと石灰散布を行いサツマイモ畑の準備をした。二一日に「春のガーデンング」という園芸プログラムを開催する予定であったが、雨天のため残念ながら野外での活動をする事ができなかった。時間をずらし、夕刻にスタッフのみでサツマイモ(ナルトキントキ)二〇本の苗付けを行った。一週間後の五月二八日の園芸プログラムにて落花生の苗付けを行った。参加学生は三名であった。

一〇月二二日のReアワープログラム「秋の収穫を楽しもう」にて、サツマイモと落花生の収穫を行った。後期は緊急事態宣言が解除され、大学も段階的に対面授業が再開されたため、今回は普段より多い一四名の学生が参加した。グループに分かれイモ掘り(三グループ)と落花生収穫(一グループ)の作業を



写真④ 春の寄せ植え



写真⑤ ヒマワリの花



写真⑦ サツマイモ収穫



写真⑥ 秋の収穫風景  
(金曜 Re アワーにて)

行った。前期に大学にほとんど来るのでできていない学生も多かったため、インスタグラムを交換するなど、積極的に親交を深めようとする姿が見られた。当日初めて会った者同士も、協力しながら作業をしていた。また、自分の畑を持つ人生経験豊富なリカレント生が作業方法を伝授してくれる場面も見られた。落花生は大変豊作であったが、今夏は雨量が多かったせいか、残念ながらサツマイモは不作であった。幸いなんとか一人一本ずつ学生に配れる量の収穫ができた(写真⑥⑦⑧)。

会合飲食禁止のため、昨年同様調理プログラムは計画せず、レシピのプリントを収穫物と共に学生に配布した。学生からは「イモはあんまり穫れなかったけど友達が多かったので参加してよかった」「土



写真⑧ 落花生収穫

の中で落花生が育つなんて知らなかった」「土いじりをしたのは小学生ぶりでした」「た」など好意的な感想を聞くことができた。今後の予定としては、一二月二四日に、バラヤシクラメンなどを使いクリスマスにちなんだアレンジメントを製作する予定である。アレンジメントは個人の作品に加え、一人一本ずつ花を選び、順番にオアシスに挿していく共同アレンジメントの製作も計画している。

今年もコロナ禍で制限のある中、私たちスタッフは試行錯誤を繰り返しながら運営を行った。天候不順であったり、思うように野菜が育たなかったりと、やはり自然と生命を扱う作業は難しい。今後何が起こるかかわからないが、まずは学生向けに園芸療法を継続して実施できていることに感謝しつつ、学生相談室という限られた場で、自分たちも楽しみながら学生に自然に触れ合う機会を提供できるよう努力していきたい。

(渡里 千賀)